

袴田事件～死刑制度について改めて考える

(『ふたりの死刑囚』上映・袴田事件弁護団事務局長講演)

名張毒ぶどう酒事件・奥西 勝(89)、袴田事件・袴田 巖(79)



再審への扉——。いまだ、開かれず

ふたりの死刑囚

『約東 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』東海テレビ最新作

ナレーション 仲代達矢 プロデューサー 青藤真一 音楽 木多俊之 音楽プロデューサー 岡田正子 撮影 坂井晋也 音声 福田健太郎 オールソング 山口幹生 スタッフ 須田麻紀子 菅野あま 久保田吉親 CG 家海タトルン 脚本 山本史風 監修 門脇康徳 映像協力 テレビ朝日 アジアンビジュアル 写真協力 中日新聞社 編集 奥田崇 監督 藤田隆香 制作・製作・配給 東海テレビ 配給協力 東風 2015年/85分/HD/16:9/日本

www.futarinoshikeisyu.jp

©東海テレビ放送

参加費無料
事前申込不要
(先着200名)

プログラム

13:00 開場

13:30～
ドキュメンタリー

『ふたりの死刑囚』上映
(上映時間85分)

15:15～ 講演
おがわ ひて よ
小川 秀世 弁護士
袴田事件弁護団事務局長
静岡県弁護士会所属

16:30 終了

とき 2024年 6月 8日 土

ところ メルカつきまち
(長崎市築町3-18)
(交通アクセス)
◎バス「中央橋」「万才町」下車徒歩2分
◎路面電車「浜町アーケード」下車 徒歩3分
◎JR長崎駅より車で5分



主催

長崎県弁護士会
Nagasaki Bar Association

【共催】日本弁護士連合会・九州弁護士会連合会

【お問い合わせ】長崎県弁護士会 ☎095-824-3903



2014年3月27日、ひとりの死刑囚が釈放された。

袴田巖 (79歳)。昭和41年、静岡県清水市(当時)の味噌会社で4人の焼死体が見つかった「袴田事件」。袴田は確定死刑囚となった。再審開始の決定は、有罪の決め手になった血に染まった衣服のDNA鑑定の信憑性。48年ぶりに釈放された袴田は、3歳年上の姉と生活を始めた。しかし、自由になったはずの袴田も、検察の即時抗告によって再審は始まっていない。いまだ死刑囚であることに変わりはなく、年金もなければ、選挙権もない。長年の拘置所生活による拘禁反応で、精神に障害が残っている――。



2015年10月4日、ひとりの死刑囚が獄死した。



奥西勝 (享年89歳)。昭和36年、三重県名張市の小さな村の懇親会で、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡した「名張毒ぶどう酒事件」。奥西は35歳で逮捕され、死刑が確定したが、獄中から無実を訴え続けた。半世紀に及ぶ独房生活、その間、奥西は2桁を越える囚人が処刑されるのを見送った。ここ3年間は、八王子医療刑務所で寝たまりの生活を送っていた。奈良県の山村に暮らす4歳年下の妹が、兄の無実を信じ、片道5時間をかけて八王子へ通い続けていた――。

ふたりの冤罪を訴え続ける死刑囚とその家族の人生から浮かび上がるのは、「法治国家」日本の司法が裁いた、否、犯した罪だ。製作は東海テレビ放送。『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一が本作をプロデュースし、そのメガホンを鎌田麗香が引き継いだ。同作で奥西勝を演じた仲代達矢がナレーションをつとめる。奥西の無念の死を受け、緊急公開を敢行する。

www.futarinoshikeisyu.jp

ご案内

死刑制度に関しては様々なご意見があるところですが、人権擁護団体である長崎県弁護士会は、生命権という観点から分析し、「死刑制度の廃止等を求める決議」(2023年(令和5年)2月22日定期総会)を行いました。今般、市民のみなさまに、死刑制度についてお考えいただきたいと思い、本企画を立てました。第2部では小川秀世弁護士(袴田事件弁護団事務局長)から、袴田事件のあらましと拘禁反応について講演いただきます。ぜひともご来場くださいますようご案内申し上げます。